

「豊太郎が意識のないときに相沢がエリスに伝えた」というストーリーについて」

## 理由

舞姫を読んでみて豊太郎が倒れて意識がなくなったという設定がどうもおかしいと思った。物語が展開していく上では必要なのかもしれないが物語は豊太郎の視点から書かれているため、相沢を憎むという結末に至るまで豊太郎にとって都合がよいように書かれてあると思ったから。

## 結論

豊太郎の無能さと無責任さを表す場面であり、豊太郎の性格と相沢の性格とを対照的に表している。

## 豊太郎の性格より

豊太郎の性格の特徴とし自分が持つ意志というものを自分ひとりで実行することなく、他人の導くレールの上を進むということがあげられる。このようにいつも受身であるから、自分の波瀾の多い人生に対して他人のせいにしてしまい、無能な人間になってしまっている。

例えば、「我と人との関係を照らさんとするとき頼みし胸中の鏡は曇りたり。」と本文にあるように、豊太郎は自分が逆境に追い込まれたとき心の中の鏡が曇ったから何もできないと書いてある。何もできないのは心の鏡のせいだと言っている。豊太郎は他のもののせいにすることで自分の責任を認めない、無責任な人間である。だから自分で自分の状況に関わる問題を解決していくことはない。

豊太郎の性格を踏まえた上で、豊太郎が意識をなくす前後の場面を考える。豊太郎が大いに日本への帰国を「承知しました。」と言ってから家に帰るときにかけて豊太郎の苦悩の様子が書かれている。この苦悩とはエリスに日本への帰国を何と云えばいいのかということである。豊太郎はこの苦悩についてずっと悩んだままで具

体的に対処しようとはしない。苦悩によるつらさを冬の真夜中に雪が降っているという風景と合わせて書いてあるだけだ。このことは、これだけ時間をかけて悩み、身体的にも精神的にも疲労しているからこの後豊太郎が倒れても無理はないという状況を作り出している。また、とてつもなく苦しい悩みであったということも表している。「我が脳中にはただただ我は許すべからぬ罪人なりと思ふ～」とあるように自分を自傷している。しかし罪人だと認めたことで悩みは解決することもないし、ただ自分の苦悩を書きつづけているだけである。豊太郎自身による言い訳である。そして自分ではどうしようもない悩みを放置したまま意識を失うことで他の人がどうにかして解決してくれるのを待っているかのようだ。責任回避ともいえる。

豊太郎の意識が戻り、相沢がエリスに告げたことやエリスの発狂を知るが、豊太郎は意識を失っていたのでエリスの発狂の直接の原因にはならないのである。エリスとの関係が終わったのは自分のせいではないとしておくことで自分の非を隠し、エリスを愛していたのに相沢が悪いという状況にしたのである。エリスが発狂してからのエリスのことを「生ける屍」や「哀れなる狂女」と表現している。エリスの発狂の凄まじさがわかる。しかし、いくらエリスがおかしくなったとはいえ、愛していた女性をこのように表現することはひどくないか。豊太郎の相沢とエリスへの無責任さが感じられる。

#### 相沢の性格より

相沢の性格と豊太郎の性格は対照的だといえる。豊太郎は目先のことばかり気にとられてしまうのに対して、相沢は相手の性格や意図を理解した上で発言する。相沢は大臣が豊太郎の言語能力を認めていることを知った上で、相沢は豊太郎と自分自身の出世のために、行動している。私情を除外してでも出世することを重視している。だから豊太郎とエリスとの関係についても豊太郎の性格を知った上で関係を絶つように忠告している。またエリスの発狂後にエリスの家族に生活費を渡している。このことから物事をきちんと始末する人間だと思われる。ただ泣いて相沢を恨むしかなかった豊太郎とは違っている。

#### 結論

「豊太郎が意識のないときに相沢がエリスに伝えた」という設定について、相沢がいなければ出世もエリスとの関係を絶つこともできずに、責任から逃げてしまった豊太郎

と、ただ出世のために使命を果たす相沢の性格の違いがよく現れている場面である。

解決できなかったこと

豊太郎が意識をなくしているときの相沢の気持ちが分からなかった。

参考にしたもの

「近代文学研究会」

「国語便覧」